

会議結果のお知らせ

会議の名称	令和7(2025)年度第1回栃木県ケアラー支援推進協議会
会議の公開について	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開
(概要)	
1 日時	令和7(2025)年7月25日(金) 14時30分から16時00分まで
2 場所	県公館 大会議室
3 出席者	委員18名
4 議事	
(1) ケアラー支援に向けた取組の状況について	事務局から「ケアラー支援に向けた取組の状況」について説明し、質疑応答を行った。
(2) 栃木県ケアラー支援推進計画における評価指標の実績について	事務局から「栃木県ケアラー支援推進計画における評価指標の実績」について説明し、質疑応答を行った。
(3) 令和7(2025)年度の重点的取組事業等について	事務局から「令和7(2025)年度の重点的取組事業等」について説明し、質疑応答を行った。
(4) その他	事務局から「令和6(2024)年度成果物(手引き・サイト・手帳)の運用状況」について報告し、質疑応答を行った。
【会議全体を通しての委員からの主な意見】	
<ul style="list-style-type: none">・ケアラー支援の評価指標については、成果や変化を可視化する指標の設定や、次期計画に向けた指標のあり方を検討する必要がある。・ピアサポーターの養成は重要である一方、当事者の負担を軽減する仕組みと、定義や研修制度の見直しなど、当事者の立場に配慮した制度設計が求められる。・介護者交流会と介護教室の区別が曖昧であり、定義や指標の整理が必要。ケアラー支援においては、介護者の交流を主目的とした取組に注力すべきである。・ケアラー支援における県、市町、関係団体それぞれの役割分担を明確化し、施策の全体像を分かりやすく示す必要がある。また、ビジネスケアラーやダブルケアなど、見えにくい課題への対応も検討すべきである。・介護人材の不足や貧困の問題などに対応するためにも、ケアラーを支える人材の確保と包括的な支援体制の整備が一層重要である。・医療的ケア児や若年がん患者等、制度の狭間にある層への支援が十分とはいえず、制度横断的な視点での支援の検討が求められる。・ケアラー手帳の活用促進に向けては、支援者によるフォローアップが有効である。・WebサイトのAIチャットボットについては、相談者の心理的負担に配慮した対応が必要であり、よりの確に支援へつなげられるよう、精度向上を図るべきである。	
問合わせ先	栃木県保健福祉部保健福祉課地域福祉担当 (栃木県ケアラー支援推進協議会事務局) 電話028-623-3047 FAX028-623-3131